

うめ さ はる
梅 咲 く 春 に

加羅古呂庵 一泉

梅咲く春に

梅は、早い年には1月から、寒さの厳しい年でも2月には花を咲かせ、「春告草」の別名のとおり、春の訪れを知らせてくれます。里山の狭間の谷戸にある、その小さな梅園にも春がやってきました。

春の柔らかな日差しに、白梅の花がいつそう白さを際立たせています。紅梅は色鮮やかに、濃厚な香りを漂わせています。咲き誇る花々の枝の間を、蜜を求めて素早く飛んでいくメジロ。そして、まだ草木の緑がわずかな季節に、日々温もりが増していき、紅白の木々は満開の時を迎えます。

穏やかな谷戸の春を「白梅の輝き」「紅梅の香り」「小鳥の目覚め」「紅白繚乱」の4つの段で描いてみました。

平和な春のひとつ時に感謝しつつ、人々が安心して暮らせる世界が早く来ることを願っています。

※縦譜につきましては、当該楽器のほかに他の楽器のパートを補助的に記載しています。正確には、加羅古呂庵ホームページの「作品リスト」より五線譜（スコア）をご参照ください。

加羅古呂庵ホームページ



1尺8寸管

尺八

口 ピ

花雲調子 一、六、斗 調弦替えあり

箏I

三 一 三 五 七 九 斗 為 巾

花雲調子 一、六、斗 調弦替えあり

箏II

三 一 三 五 七 九 斗 為 巾

運指、奏法については、適宜工夫していただいております。